

COMARCH



E-PLUS GRUPPE



ネットワーク プラニングと設計プロセスの変革
E-PLUS (現TELEFONICA GERMANY子会社)

すべてのモバイル事業者にとって、ビジネスプロセスの効率化と次世代ネットワーク (NGN) の展開コスト管理は重要な問題です。E-Plus Germanyは、この目標を達成するために、ビジネス プロセス リエンジニアリング (BPR) サポートに加え、Comarch次世代ネットワーク プラニング (NGNP) ソリューションを導入することにしました。

ビジネス ニーズ

このプロジェクトにおけるE-Plusの主な目標は、ビジネスプロセス変革とそれに伴う組織改革でした。既存のネットワーク プラニングや展開プロセスは非常に複雑で、使用中のツールではカバーできない単純な操作のために多くの作業が必要でした。スリムかつスムーズで効率的なプロセスを考え始める上で、ComarchとE-Plusはアプリケーションについて考えることを止め、プラニングとネットワーク統合におけるビジネス活動に注目するしかありませんでした。このプロジェクトの投資利益率 (ROI) を確保するため、E-Plusはビジネス重要業績評価指標 (KPI) をリスト化し、定義した結果、高レベルな事業目標が2つ含まれることとなりました。プラニングと展開を50%効率化すること、そして新技術の市場化時間を短縮 (3~6カ月以内) することです。

概念

今回のプロジェクトでは、変革の中核としてComarch次世代ネットワーク プラニング (NGNP) プラットフォームの導入を想定していました。しかし、プロセスの再設計と簡略化がプロジェクトの主な焦点であり、最大限に効率化を図るためには、それこそが最も重要なステップでした。そのため、再設計されたプロセスを基礎とし、ITシステムやインターフェースのアーキテクチャを新たに構築する場合や、移行要件の優先度や作業範囲を定義する場合のように、他のプロジェクトすべてを当てはめていきました。

Comarchは、核となるプロセスをひとつ設定し、そこに2つのメインタスクを割り当てるビジネストランジョンと呼ばれる手法を採用しました。プラットフォーム要件にあるすべてのプロセスを個々に再設計し (参考としてeTOM/ITILを、ビジネス プロセスモデリングにBPMN/EPC記法を利用)、E-Plusの標準モジュールとComarch NGNPパッケージを使用して、新たなプラットフォーム アーキテクチャを構築したのです。実際、2社の得意分野はプロジェクトを通して共存し、互いをサポートする環境にありました。また、ROIを確保するため、マネージド サービス モデルを拡張して、ボーナス・マルス制度をオプションとして適用しました。

プロジェクト – ビジネス プロセス リエンジニアリング (BPR) とアーキテクチャの変革

OSS変革プロジェクトは、新規サイト作成、システム スワップ、新規トランスポート ネットワークエレメントまたは統合プロセスなど、RAN、トランスポート、およびコア ネットワーク関連のビジネスプロセスを評価するところから始まりました。バックグラウンドにアプリケーションがない状態でも動くよう、あらゆるドメインに存在するプロセスがすべて文書化されました。このような方法を取ることで、ツールにない機能を補うために導入された旧システムに頼ることなく、重要な手順に集中することができました。プロセスの再設計には、ある程度の組織改編が伴うことも極めて重要でした。

このプロジェクトの成果として最も重要な点は、プロセス リエンジニアリングです。プロセスを新たに定義するという作業により、E-Plusは、要求されたネットワーク プラニングおよび展開関連のプロジェクトKPIを達成することができました。さらに重要なことは、再設計されたプロセスにより、ネットワーク プラニング管理および展開プロセス管理が改善され、ネットワークの品質も向上したことです。このすべてが、最終的にE-Plusの製品やサービスの向上に繋がっています。

CLIENT:

E-PLUS (現TELEFONICA GERMANY子会社)

業界:

電気通信

E-Plusグループは、2,270万人の顧客を抱える、ドイツ第3位のモバイル電気通信ネットワーク事業者です。2000年にオランダの電気通信グループであるKPNの子会社となりました。

E-Plusグループは年間30億ユーロ以上の収益を上げ (2011年)、ドイツで4,500人以上の従業員を抱えています。

提供されたソリューション:

- Comarch NGNP (次世代ネットワーク)



COMARCHを選んだ理由

“

NGNPプロジェクト全体を通して、Comarchは大規模なトランスフォーメーションプロジェクトの管理と支援に独自の概念とアイデアを開発し、それを証明してきました。ComarchのスキルとOSS戦略により、弊社は複雑な旧式のアーキテクチャやプロセスから新しい整理されたネットワークプランニング、導入、統合方法へとスムーズに転換することができました。

E-Plus プロセスとサポート部門マネージャー

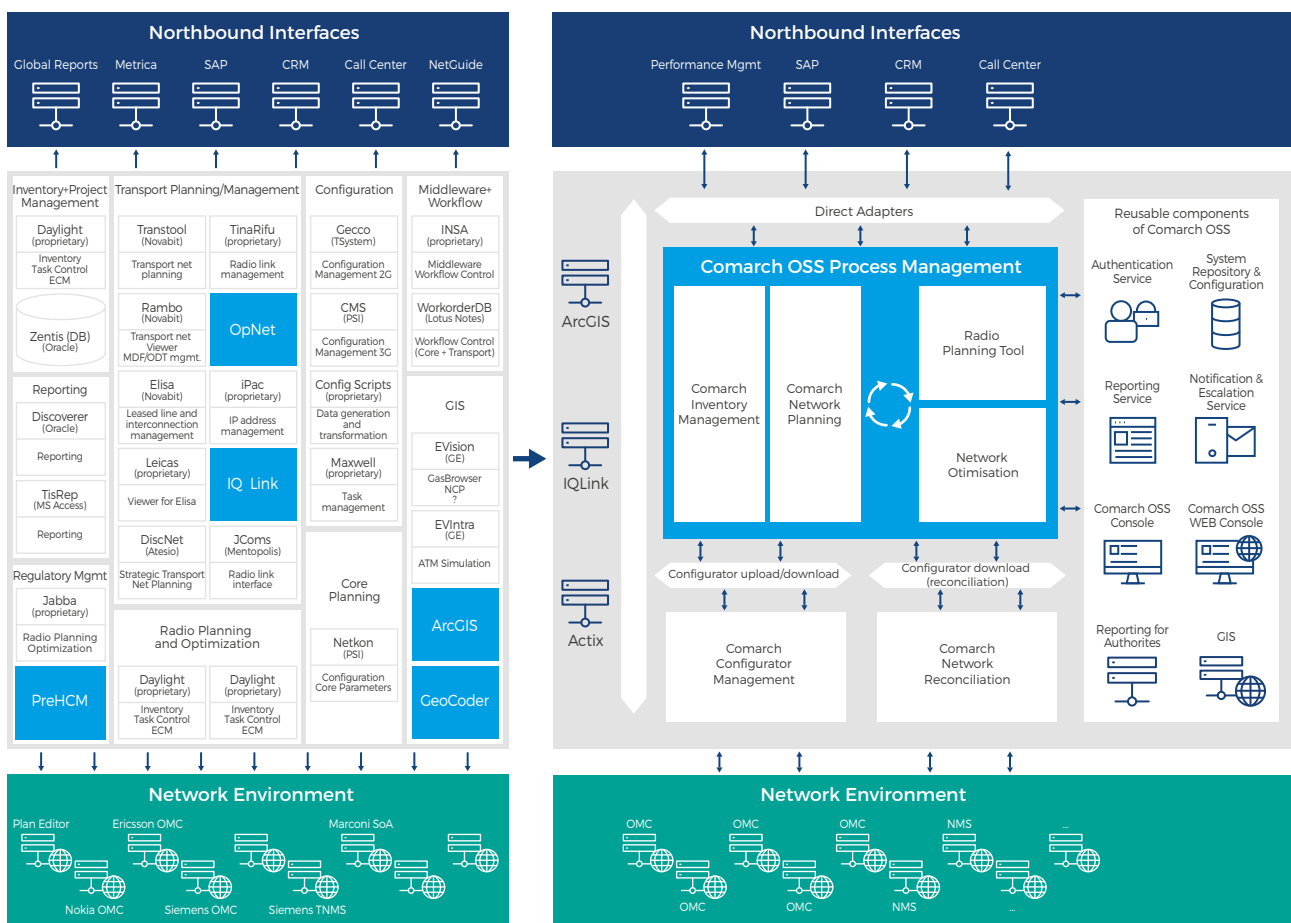
結果

結果1: ネットワークプランニングと設計プロセスの複雑さが軽減され、プロセス数が110から65に最適化

「設計」フェーズで大まかなプロセスを定義してから、実際の最適化作業を行いました。ビジネス解析の結果、RAN、トランスポート、コア ネットワークのプランニングでは、100個の既存プロセスが65個の新プロセスに差し替えられました。新プロセスによって、異なるシステム間のデータ処理が自動化され、各プランニング フェーズの境界が明確化されました。その結果、E-Plusにとってさらなるメリットとして、業務を柔軟に外部委託できるようになり、またインベントリやBPMインターフェース（ネットワーク展開用）を介して容易にパートナーに適応できるようになりました。

結果2: NGOSSアーキテクチャが簡略化および標準化

次のステップとして、ITアーキテクチャの変革が計画されました。テュー デリジェンス法に基づき、Comarchネットワーク インベントリ (リソース) とComarch OSSプロセス マネージメント (プロセス) モジュールを核として、一部の既存モジュールが評価され、新規アーキテクチャに統合されました。冗長的な機能は標準化され、最終的にComarch NGNPに移行されました



結果3: 市場化時間の短縮とネットワーク統合プロセスの最適化を実現

モバイル事業者にとって、ネットワーク統合は極めて重要なプロセスです。設定変更をオーケストレーションするために、大抵のサービス プロバイダーは現在でも、いわゆる「ターンオン サイクル」(TOC) プロセスを採用しており、規定時間内に実行する変更数を定義しています。無線ネットワーク プランナーは、TOCプロセスの最後にネットワーク設定を行うため、毎日、また設定管理システムへの統合が行われるたびに、設定をマニュアルで更新しなければなりません。そのため、設定ミスリスクが上がり、要求された設定が確実に実装されたかどうかについて、複数のプランナーが確認する必要があります。ドライブ テストが顧客クレームからしか発見できないエラーもあるのです。

E-Plusに提案されたソリューションは、簡略化されたネットワーク統合プロセスと、そのプロセスをサポートする機能を備えたツールをベースとしています。このプロセスでは、一定期間に発生する統合をすべて特定し、オペレーションを物理的統合と最適化に分離します。図2は、このプロセスを図で示したものです。

プロセス前半で削除コマンドがすべて準備され、デフォルトのパラメーターに基づき統合が実行されます。必要なテストを行った後にサイトが有効になりますが、商用トラフィックはロックされたままです。同じ状態にある他のサイト内に、そのネットワーククラスタ用のバスケットがひとつ作成されます。プロセス後半では、このバスケットが最適化され、すべてのサイトの設定を確定し、統合が行われます。このプロセス中に、すべてのサイトが商用としてマークされます。プロセス自体は、データと密接に実行されるため、ネットワーク調整プロセスに基づき、自動的に更新されるのです。作成したプランをネットワーク内で問題なく実行させるためには、プランナーに実際のネットワーク設定に近い状態を用意することが極めて重要です。これは、プロセス再定義の1例に過ぎません。

結果4: ビジネスプロセス全体を50%効率化し、ネットワーク設定ミスを削減

上記2つのプロジェクト フェーズから、50%効率化するという目標が現実的で達成可能であることが証明されました。この目標を達成するため、大量のユーザー ノウハウをComarch OSSプロセス マネージメント システムに投入し、自動化レベルを上げています。さらに、アーキテクチャを一元化したことで、大量の手作業による再入力やデータ移行が不要となりました。プロセスの自動化やデータの一元化により、ネットワーク設定ミスが減り、業務の効率性はより一層アップしました。これは、主にアプリケーション数や内部インターフェース数を減らし、標準化された現代的な手段を導入することで達成されたのです。

結果5: ネットワークインフラの外部委託とE-Plusネットワークプランニング&設計ポリシーをシームレスに統合

Comarch NGNPプラットフォームは、あらゆるネットワーク展開プロセスに対応しています。特定のプロセス フェーズは、NGMN (次世代モバイル ネットワーク アライアンス)提案や、TeleManagement Forum (TMF) のビジネス プロセス フレームワーク (eTOM) を基準に標準化されています。各フェーズは、標準統合インターフェースか、E-Plusアプリケーションにアクセスすることで実行されるため、展開パートナーの新規参入も簡単です。このプロセスで、プロジェクトの役割と責務をしっかりと定義し、E-Plusのプランナーが展開プロジェクトを完全に管理および追跡できるように支援しています。

COMARCHについて

1993年以降、Comarchの電気通信ソリューション専門事業部は、世界的な大手電気通信企業と提携し、その業務方法を変換させてきました。業界で高く評価されるComarchの電気通信事業者向けOSSおよびBSSソリューションは、電気通信事業者の業務の標準化やシステムの簡略化を支援し、ビジネス効率性と収益を増加させ、顧客体験を強化、また革新的サービスの商品化をサポートします。Comarchの電気通信事業者向けソリューションのお客様には、Telefónica、Deutsche Telekom、Vodafone、KPN、Orangeが含まれています。

Copyright © Comarch 2017. All Rights Reserved.